

新指定文化財

東久留米市では、無形民俗文化財、有形民俗文化財、史跡、旧跡など51件が文化財として指定されていますが、今回、新たに3件の文化財が指定されました。

新指定文化財をご紹介します。

米津寺開山大愚和尚肖像画(有形文化財)

幸町四丁目^{べいしんじ}米津寺 (臨済宗妙心寺派)

絹本彩色

縦100センチ、横49センチ

開山^{たいぐ}大愚和尚の肖像画で、頂相* (ちんぞう) の伝統的な形式を受けつぎ、面貌の描出も像主の個性を巧みにあらわしています。画像の上に大愚和尚自筆の讚があり、

東漂西泊 三世諸仏

一身光影 為主為伴

歸家穩坐 寒垣草木

八萬大衆 歳空松柏

七百高僧 応

とあって、承応二年(1653)の年記が墨書されています。画像の作者は不明ですが、頂相画として美術的にも優れた遺品であり、保存状態の極めて良好な歴史資料です。

なお、文化財保護のため、普段は一般公開していません。

(参考文献：文化財資料集 6「寺社建築・美術編」)



▲開山大愚和尚肖像画

*頂相

禅僧の肖像を頂相といいます。元来は俗人にみられない仏陀の頭頂部の様相という意味で、禅僧はこれを師からさずかって尊信しました。

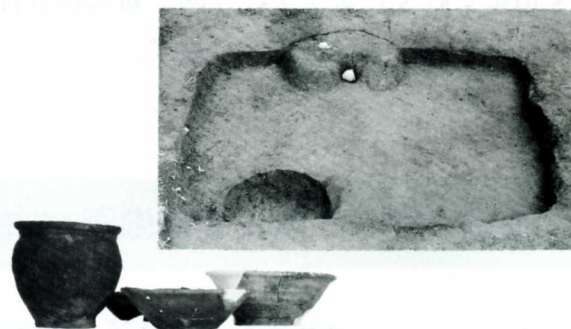
— 山川出版社『図説 歴史散歩事典』より

向山遺跡出土品一括（有形文化財）

幸町三丁目11番10号
縄文時代、平安時代
一括資料

むこうやま
向山遺跡は、昭和59年に宅地開発に伴う発掘調査が行われ、縄文時代早期と平安時代の集落跡が確認されました。なかでも早期末葉の定型的な集落跡は全国で初めての発見として注目されました。出土遺物は早期末葉の土器及び石器、平安時代の土器などです。早期末葉の条痕文系土器に東海地方の石山式や関東地方の打越式おっこしを伴う土器群が出土しており、在地の土器と持ち込まれた他地域の土器がどのように受容され、変化していったかを知るうえで貴重なものです。また、平安時代の住居跡から出土した当時のセットの土器は類例の少ない資料となっています。

出土品の一部は市の郷土資料室でご覧いただけます。



▲住居跡と平安時代の土器

（参考文献：東久留米市埋蔵文化財調査報告書第12集「向山遺跡」）

小山台遺跡（史跡）

小山一丁目10番
旧石器時代、縄文時代
4,399平方メートル



▲小山台遺跡公園

こやまだい
小山台遺跡は、昭和26年に遺跡の所在が確認され、45年には久留米中学校による学術発掘調査が行われました。この調査は生徒、教員、父母、行政機関、研究者の協力で行われた市民参加の発掘で、多摩地域でも先駆的な業績として評価されています。調査の結果、縄文時代の住居跡4棟が確認され、縄文時代中期の集落跡であることが判明しました。調査後、保存の要望が高まり、昭和57年に遺跡公園として整備されると共に、公有地化が進められ、平成10年度で完了しました。市内の縄文時代遺跡としては最大規模の一つであり、その中心部分が遺跡公園として保存整備された貴重な遺跡です。

（参考文献：「小山台遺跡」）

くるめのアルバム



▲昭和28年 氷川台一丁目
門前の氷川神社から門前大
橋方向を望む。



▲昭和41年 本町二丁目
蛇行する黒目川。今の新大
橋東側にあった旧道の橋。



昭和14年▶
当時は珍しかった
オート三輪。



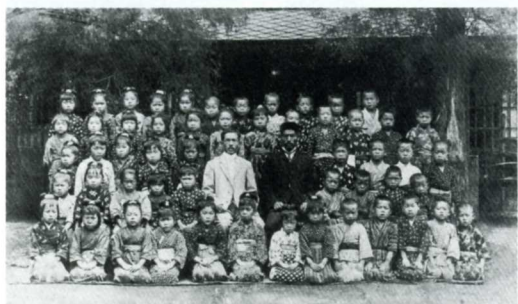
▲昭和44年 東久留米駅
ホームはまだひとつ。乗客は線路
を渡って改札口へ向かう。



▲昭和44年
雑木林と畑を切り開いて滝山・
久留米西団地が出現。



◀昭和16～17年 滝山四丁目
早稲田大学久留米練成道場



▲大正5年 本町四丁目
明治18年開校の共立学校。



▲昭和50年代 柳窪四丁目

「写真でつづるふるさと東久留米 — 光の交響詩」を発売します。

市制施行30周年を記念し、今号でご紹介した写真など、明治時代から昭和40年代中頃までの東久留米の移り変わりをつづった写真集を発売します（平成12年4月1日発行）。



一面の田畑と森林であった頃の東久留米の風景や、昭和30年代にはじまる大団地の建設の様子、蛇行し増水した川、大正時代や昭和初期の学校、島式ホームだった頃の東久留米駅、昭和20年代からの航空写真など、モノクロを中心とした約330点の写真がその変貌の様子を語ります。忘れかけていたなつかしい風景に再会できることでしょう。

【編集・発行】

東久留米市教育委員会社会教育課

〒203-8555 東京都東久留米市本町3-3-1

電話 0424-70-7777 内線 3213～4